

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

道北医療圏における倫理カンファレンスの取り組み
～ 地域中核病院集中治療室へのコンサルテーション～

酒井周平

道北医療圏における倫理カンファレンスの取り組み ～地域中核病院集中治療室へのコンサルテーション～

旭川医科大学病院 ICUナースステーション 酒井周平

【実践の背景・目的】

北海道の第3次医療圏は、道南・道央・道北など6区域に分けられている。今回、同じ道北医療圏にある地域中核病院(以下、B病院)の集中治療室看護師より、臨床における倫理的問題の明確化や倫理カンファレンス(以下、倫理CF)の方法について相談を受け、3年間に渡りコンサルテーション活動をしたので報告する。

【実践内容】

コンサルティは臨床経験10年目で院外研修に参加するなど学習意欲が高く、組織の中心的な存在であった。倫理係として、日頃から倫理的問題を感じながらもうまく対応ができず、もっといい関わりをしたいと考えており「部署で倫理的問題への取り組みをしたいが、どのように進めたらいいか」と相談があった。B病院は4000km²を超える広域、かつ人口密度100人/km²以下と拠点病院までの移送に時間を要する医療圏にあり、遠方から多様な重症患者を受け入れていることから、倫理的問題への介入が求められる機会が多い。よって倫理的感受性が培われ、カンファレンスの方法を得ることで適切なタイミングで倫理CFを開催できることを目標に、コンサルティ中心の管理コンサルテーションとして介入を開始した。これまでICUにおける倫理的問題に関する学習会や事例を通して倫理CFの方法論の理解を深め、実際の運用について継続的に支援した。

【倫理的配慮】

A大学倫理委員会の承認を得た。開示すべき利益相反はない。

【実践結果】

コンサルティは「倫理係を中心に勤務中に倫理について話すようになった。倫理的問題が明確になりカンファレンスの方法も理解できた。」と、独自の倫理CFシートを作成して運用を開始した。2019年度9件、2020年度17件の倫理CFが開催された。

【考察】

倫理係を中心に倫理CFが開催されるようになったが、スタッフ全体の底上げや多職種での運営が課題である。これまでの成果を承認しながら、引き続き支援的な立場で働きかけていく必要がある。